

## 全学 FD 研修を実施しました

今年度の全学 FD 研修は、新任教員を対象に全 2 回のプログラムで実施しました。対面とオンデマンドを併用した形式で実施しました。第 1 回研修はオンデマンド形式でオリエンテーションと第 2 回目で実施する「授業デザイン研修ワークショップ」の事前学習となるプログラムを実施しました。第 2 回は、「授業デザイン研修ワークショップ」として、4 グループに分けてのワークショップを実施しました。「協働でシラバスづくり」では、全学初年次教養科目である「文理融合教養科目『地域共生社会と SDGs』（1 年生・前期）」を対象とし、講義内容や履修者数等、具体的な条件を付けてのシラバス作成に取り組みました。文理混合の各グループの教員からは、工夫に富んだシラバス案が発表され、参加教員間で情報共有がなされました。また、研修終了後には懇親会を実施しました。懇親会では、多くの参加者のもと会場内各所で懇談・談笑が飛び交うなど、大いに盛り上がりを見せました。

## 授業アンケートを実施しました

前・後期期間中に授業アンケートを行いました。「学生の授業に対する理解や関心の度合いについて問う項目」「学生の身に付いた力や授業方法について問う項目」からなる計 8 項目のアンケートを実施しました。アンケートの内容と結果の詳細については FD 活動のページより学内限定でご覧いただけます。次年度は授業アンケートの実効性の向上、アンケート結果の活用方法、アンケート回収率の向上等を引き続き検討予定です。

## FD セミナーを開催しました

12 月 13 日（土）に、「学生が主役になれる授業設計—PBL 型学習を中心とするアクティブラーニングの実践を通じて—」をテーマに FD セミナーを開催しました。アクティブラーニングの豊富な実践例を持つ現代社会学部の上野山 裕士 講師による講演や教員と AL 経験学生によるパネルディスカッションを行いました。参加者からは、「講義型授業と PBL の違いや、実際の学習内容・学び方を具体的にイメージできた。」「積極的に PBL をされている先生がどのような視点で授業を組み立て、実施されているのかがわかって良かった。」「学生の方からの様々な考えを聞いて色々を考えることができた。」等の意見がありました。

## 三大学連携 FD フォーラムを開催しました

3 月 3 日（火）に、大阪工業大学および広島国際大学の共催で筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）の舩越高樹准教授をお迎えし、「多様な背景のある学生への支援と合理的配慮の視点」をテーマに三大学連携 FD フォーラムを開催しました。前半は、多様な背景のある学生の支援状況や合理的配慮の実態について事例や事前に参加者より収集した質問事項への回答を交えながら舩越氏にご講演いただきました。後半は舩越氏と摂南大学、大阪工業大学、広島国際大学の教員によるパネルディスカッションを行いました。

## 各学部・センターの今年度のFD活動

### 理工学部

#### (1)「2025年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

理工学部教員表彰推薦委員会が対象者を選定し、学部長に推薦した後、学部長により表彰します。第1部門「教育貢献」の中に、授業アンケート評価による推薦を実施しています。

2025年度の表彰は、2026年3月17日に開催された理工学部FDフォーラム内で表彰いたしました。その後、代表して三人の先生方にスライドレクチャーをしていただきました。



#### (2)2025年度FD活動のミッションおよび実績

理工学部では、2025年度初めにFD委員会のミッションが下記のとおり、理工学部長によって策定され示されました。理工学部FD委員会は、これに従って、2025年度のプランを設定して活動します。

理工学部FD委員会（FD活動の推進、全学FD委員会との連携）

【継続】授業アンケートの回答率向上策の検討 ※表彰委員会と連携

【継続】FD推進委員会からの依頼事項への対応

【継続】新しい教育手法を試す教員への支援方法など、FD活動活発化のための検討

【継続】授業公開の実施、見学結果の活用方法（授業改善の見える化）

【継続】FDフォーラムの開催

中期目標【行動計画】、学長方針とのリンク

【中・2】学修成果の可視化に基づく教育改善(FD・SD活動)を組織的に強化する

【学・(2)・②】FD/SD活動の強化：「主体的・自律的学び、対話的学び、深い学び」のための教育デジタル変革の推進、学修方略改（反転授業〈ブレンディッド授業〉、完全オンデマンド授業等の推進）、教員の教育スキルの養成（コーチング力、ファシリテーション力等）

以上のミッションについて、それぞれ活動を行いました。実績については以下の通りです。

- ・ 2025年6月16日（月）～7月25日（金）に前期授業見学期間を設定し、全教員に6月11日付メールで案内しました。授業見学の報告方法を、FormsアンケートによるWEB報告としました。報告においては、対象の授業を行う教員への意見や感想を述べるのではなく、自身の授業改善に関連する感想・意見を記入することに重きをおき、かつ、教室名や入室退室時間などの項目を削除して、できる限り、簡便かつスムーズに報告できるアンケート項目に変更することを決定しました。
- ・ 後期の授業見学は、昨年引き続き、各学科の授業の集大成である卒業研究発表会・審査会・発表展の見学とし、2026年1～2月に開催しました。学部全体で実施することにより、学修成果の可視化に基づく教育改善を組織的に強化しました。

### (3)FD 活動を教育改善に反映する仕組み

- ・ 授業見学アンケート結果は、各学科の FD 委員を通じて学科にフィードバックし、授業改善に活用しています。
- ・ 2025 年度の FD フォーラムでは、後期の授業見学として実施した卒業研究発表会・審査会のアンケートのまとめについて共有し、意見交換を行いました。
- ・ 理工学部 FD フォーラムは、2026 年 3 月 17 日に実施され、学会等の期間と重複した中で、教員 83 名中 62 名の参加がありました。理工学部教員表彰と表彰者 3 名のショートレクチャーによって、優れた授業方法や研究活動の工夫を全教員で共有し、理工学部教員の各々が教育改善に反映できるようにしました。続いて、「卒業研究発表会・審査会・発表展などの見学アンケートの報告と意見交換」を実施いたしました。
- ・ 理工学部の FD 活動をより発展させるための意見交換会のテーマは「大学生の教育・研究における生成の功罪について」とし実際の AI での回答事例の紹介の後、各先生方の現実に困っている事例、対応事例等について意見をいただき理工学部の FD 活動をより発展させるための意見交換会となりました。この課題は今後の引き続き意見交換を行う必要のある課題となりました。



## 国際学部

### (1) 2025 年度 FD 活動のミッションおよび実績

#### 1. Teams チーム「L 部遠隔授業事例紹介・情報共有」(通年)

コロナ禍の時期に設置し、現在も各チャンネルを維持しています。対面化が進む中で、今年度は活用機会がなかったが、今後も、遠隔授業の実施や ICT ツールの利用にともなう非常勤講師からの質問に専任教員が回答するといった事態はあり得えます。このため、当該チームは引き続き維持したいと考えています。



#### 2. 国際学部独自の授業公開(見学)

今年度は 11 月を期間として指定し、学部授業公開(見学)を実施しました。対象授業は特に限定せず、見学を希望する教員が当該授業の担当教員に対して個別に打診し、了承を得られた授業について見学を行なうものとしました。結果、演習科目を中心に 6 件の見学が報告されました。

#### ■2024 年度 国際学部 FD フォーラム

テーマ:「国際学部 3 年目の教育実践—「協働学習プロジェクト科目」社会共創領域を中心に」

趣旨:本フォーラムでは、国際学部 3 年目を終えようとするタイミングに合わせ、これまでの教育実践の報告をもとに、現状における成果についての情報共有を進め、また今後に向けた課題について議論しま

した。また、質疑応答や意見交換の時間を十分に確保し、広く学部教員が学部 FD 活動に参加できる機会としました。

実施日：2024年2月4日（火）教授会終了後

実施形態：Teams「L部会議」にてオンライン開催

発題（報告）者：協働学習プロジェクト科目「プロジェクト科目（社会共創領域）」（6科目）担当者

### 3. 2025年度 国際学部 FD フォーラム

テーマ：「国際学部授業の国際化―実践事例から学ぶ」

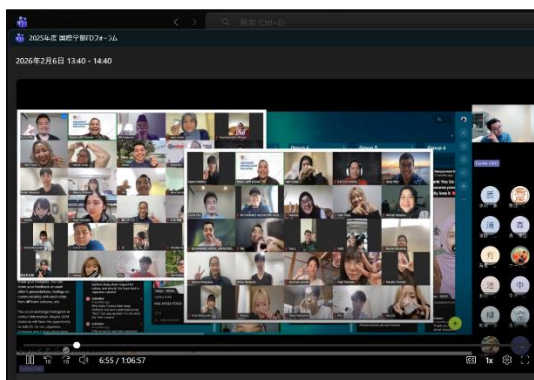
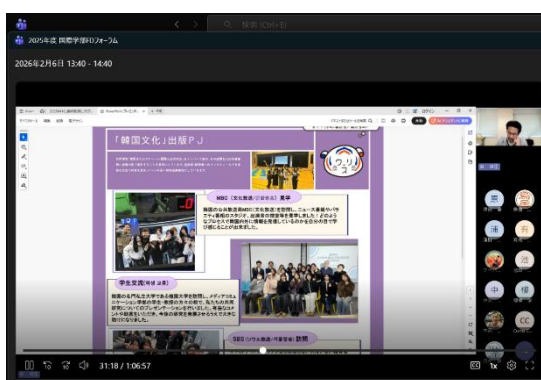
趣旨：国際学部におけるこれまでの教育実践の報告をもとに、現状における成果についての情報共有を進め、また今後に向けた課題について議論する。本フォーラムは、質疑応答や意見交換の時間を十分に確保し、広く学部教員が学部 FD 活動に参加できる機会とする。

実施日：2026年2月6日（火）教授会終了後

実施形態：Teams チーム「L部会議」にてオンライン開催

発題（報告）者：①Curtis Chu 講師、②森 類臣 准教授

発題者には、あらかじめパワーポイントでの資料を準備していただき、フォーラムではその補足説明を各々15分程度行ないました。その後、それらをもとに参加者全員による情報共有および意見交換を行ないました。なお、フォーラム後には、Forms によるアンケートを実施し、結果については FD 委員会で取りまとめ、教授会において報告を行いました。



### (2) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

今年度は、昨年度に引き続いて学部独自の授業見学を実施し、対象授業を指定することなく幅広く見学することを可能な形としました。結果として、同一名称で多数のクラスを設定する演習授業の相互見学の事例が比較的多く集まり、教育実践の経験を交換する貴重な機会となりました。

また、本学部で開講された授業から得られる身近な実践知を共有する場として、学部 FD フォーラムの企画開催を継続的に行なっています。本年度の企画では、国内外の情勢の変化によって国際学部における教育実践の内容が問われるこの時代において、現状における学部の国際化実践の成果についての教員間の情報共有を進めることを試み、今後に向けた課題について議論する機会ともなりました。今後も本フォーラムでは、その時々懸案事項を幅広く取り上げ、質疑応答や意見交換の時間を十分に確保すること

2025年度国際学部 授業アンケートの活用についてのご質問

今年度の授業（質問1、2）、来年度の授業（質問3、4）の両方、もしくは、どちらかにお答えください。  
ご本人は、satoru.tanaka@ic.setsunan.ac.jp さん、このフォームを送信すると、所有者に名前とメールアドレスが表示されます。

1. 昨年度の授業アンケートを受けて、今年度に工夫や改善を試みた授業科目名

回答を入力してください

2. 1の内容を具体的にお書きください。（例：PPTの文字が小さいと指摘があったので、大きくした〇〇に関心を持つ学生が多かったので、さらに詳しく説明した。）

回答を入力してください

3. 今年度の授業アンケートを受けて、来年度に工夫や改善を試みたい授業科目名

回答を入力してください

4. 3の内容を具体的にお書きください。（例：グループワークが上手くいかなかったので、より小さいグループで活動させたい。/設問2で思考力の回答率が高まるように、課題を工夫したい）

回答を入力してください

で、広く学部教員が学部 FD 活動に参加できる機会としていく予定です。

なお、フォーラム後のアンケートでは、上記の諸点について感想や意見を記入してもらい、教員へのフィードバックを行ないました。こうした活動を通じて、FD 活動を次年度以降につながる有意義なものとしていきたいと考えています。

さらに、全学で行なう授業アンケートについても、コメント記入期間終了後の 3 月に、フォームを使って学部教員から活用事例のアンケートをとり、事例共有を行なうことを以前より実施しています。本年度もこれを継続し、教育活動の改善を促す材料として活用していきます。

## 経営学部

### (1) 「2025 年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

2026 年 3 月に対象者を決定する予定です。なお 2024 年度の対象者は以下のとおりです。

<2024 年度前期>

樋口友紀 准教授、花木完爾 講師

<2024 年度後期>

林正浩 教授、梅原喜政 講師

### (2) 2025 年度 FD 活動のミッションおよび実績

#### ■授業公開の実施（前期・後期に各 1 回）

前期：2025 年 6 月 30 日（月）～7 月 12 日（土）21 名の教員が 48 科目を見学

後期：2025 年 12 月 1 日（月）～12 月 13 日（土）19 名の教員が 40 科目を見学

見学結果は授業参観シートとして回収し、授業担当者にフィードバックしました。

#### ■学部 F D フォーラムの開催（年 2 回）

・第 1 回 F D フォーラム（2026 年 2 月 20 日（金）14：00～14：50）

テーマ：若手教員の教育・研究内容について

講演者：花木完爾先生

備考：2025 年 9 月 17 日（水）に開催予定でしたが、講演者の体調事情により延期になり、2026 年 2 月 20 日（金）に開催日が変更されました。

・第 2 回 F D フォーラム（2026 年 2 月 20 日（金）14：55～15：55）

テーマ：私立大学等改革総合支援事業採択に向けた学部の取組（学習成果の可視化）

要旨：私立大学等改革総合支援事業（タイプ 1）の採択に向けて学部としての対策の 1 つとして学習成果の可視化のための学部の「ディプロマ・サプリメント」の開発を考えており、この「ディプロマ・サプリメント」をどのようなものにするか学部教員間で意見交換を行いました。

#### ■授業アンケートへの取り組み

・学生の回答率向上のためアンケートに回答する時間を講義中に確保することを教員に依頼しました。

・教員のコメント率向上のためコメントを入力するよう教員に呼びかけました。

・「授業アンケート実施対象外科目」のうち実施対象とする科目の選定を行いました。

### (3) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

これまで経営学部では、教育に関する自己点検および評価を定期的実施し、その結果を教育改善につなげることを目的として、経営学部教育改善システムを構築してきました。本システムのもと、「教育目標検討委員会（Plan）」「授業担当者（Do）」「自己点検評価委員会（Check）」「教育改善委員会（Action）」の 4 つの機関による PDCA サイクルを推進してきました。さらに、2025 年度後半から次年度に向けては、学部 FD 委

員会と学部教務委員会が連携し、内部質保証の高度化を目的として、新たな外部評価の実施に向けた学部内体制の整備および課題の整理を進めています。



[第1回学部FDフォーラムの写真]



[第2回学部FDフォーラムの写真]

## 法学部

### (1) 「2025年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

法学部内の手続きに則り、表彰者に対して次年度の研究費増額配分を決定しました。なお2025年度は萩原佐織准教授を表彰しました。

### (2) 2025年度FD活動のミッションおよび実績

#### ■授業公開・見学の実施 2025年12月1日（月）～12月13日（土）

すべての法学部専任教員が、一つ以上の授業を公開、一つ以上の授業を見学しました。また、見学した授業についてコメントを書き、それをまとめて全教員に配布しました。

#### ■FDフォーラムの実施 2026年2月20日（金）

テーマ①「法学部教育におけるAIとの向き合い方－学生に論理的な思考力を身に付けてもらうために－」

講師：元大阪高裁判事。神戸地裁所長 石原 稚也 先生

テーマ②「前任校でのFDの取り組み」

講師：眉山女学園大学現代マネジメント学部准教授 仲尾 育哉 先生

#### ■4年生（卒業生）に対するアンケートの実施

- ・対象：法科大学院や公務員・プライム市場上場企業等への就職者が中心（20名程度）
- ・項目：進路を選択する上で役立った授業、オンライン授業のメリットやデメリットなど
- ・目的：数年間データを蓄積し（本年度で3回目）、授業改善（オンラインや対面の授業を行う上での留意点の抽出等）や、カリキュラムの改編等に役立てる。FD委員会がデータを蓄積し、そのデータをもとに組織的なFD活動の実践につなげます。

### (3) FD活動を教育改善に反映する仕組み

学部で計画した教育改善に関する活動（Plan）を、授業担当者や学部内各種委員会で実施し（Do）、学部FD委員会で行うアンケート等などの評価指標を踏まえ、必要に応じて教務委員会等の学部内委員会や外部評価委員と連携し、実施した活動の評価や改善点を検討し（Check）、改善点を抽出します。抽出した改善点を、教授会（教員全体）に報告することによって、教育の改善を図る（Action）とともに、次なる活動計画を策定（Plan）します。現在、法学部FD委員会が中心となり、このPDCAサイクルを通じて、FD活動を教育改善に反映する仕組みの強化を図っています。具体的には、上記4年生に対するアンケート結果を法学教務委員長にも周知し、カリキュラムの評価に結びつける活動を実施しています。



## 経済学部

### (1) 2025 年度 FD 活動のミッションおよび実績

「学生本位の教育」を実現するため、経済学部では以下の FD 活動を実施しました。

#### ■授業見学

前期は「2025 年 6 月 23 日（11 回目）～前期終了まで」、後期は「2025 年 12 月 1 日（9 回目、10 回目または 11 目）～後期終了まで」の期間に、授業見学を実施しました。前期に公開する教員と後期に公開する教員にわけています。授業見学は、学部の FD 委員で分担して実施しました。見学後は、Microsoft Forms に記入用フォームに所見を記入してもらいました（写真 1 参照）。それらは後述する学部 FD 勉強会の資料とします。これは、各講義の工夫や問題点について明らかにすること、そしてそれらの情報を教員間で共有することを目的としています。

<見学所見記入用フォーム（後期用）>

#### ■講義・ゼミ運営等に関する意見交換会

昨年度・今年度に、5名の新任教員が経済学部に着任いたしました。そして新任の先生方は、工夫をしながら講義やゼミ運営を進めていますが、その一方で悩みもあると思います。もっともこれは、他の先生方も同じでしょう。そこで、将来の講義・ゼミ運営に役立てるために、先生方から講義やゼミ運営についての意見交換会を実施しました。実施日は9月17日（水）で、時間は1時間程度でした。

議題となったテーマは以下の通りです：

- (1) 新任の先生方が困っていること（新任教員より）
- (2) 2025 年度からの新カリキュラム科目の担当者より、講義を担当して気がついたこと
- (3) 2025 年度からの新カリキュラムについての再説明（教務委員より）
- (4) 出席対策（学生の留年防止のためにも有意義と考えられるため）
- (5) 再履修対策（必修科目の担当クラスの交換など）

新任の先生の皆様が講義やゼミ運営でいろいろと困っている点、新カリキュラムの講義担当者が気づいた点などを教員間で共有し、学部全体で対応方法について話し合う良い機会となったのではないかと思います。この意見交換会が、今後の講義・ゼミの改善に繋がることを期待しています。

#### ■経済学部学生ミーティング 2026年3月4日（水）実施

学生から意見・要望を聞く機会と、今年も例年と同じく、オンラインで実施しました。特に4年次生にも集まっていただき、4年間を振り返って意見を述べてもらう予定です。今年は通学バスの問題の他に、食堂の改善案、講義関係の連絡手段についての要望などが出されました。これらの内容は、後述の経済学部FD勉強会でも共有・議論をする他、意見のまとめを教務課等関係部署に送付する方針です。

#### ■授業アンケートに基づく教員表彰 2026年3月17日（火）（教授会開催日/FD勉強会内で開催）

授業アンケートの設問（Q5～Q7）の平均値が最も高かった講義を必修科目・選択科目から前期・後期それぞれ1つずつ、表彰対象として選びました。対象となる講義の条件は次の通りです。

アンケート回答者数10人以上の科目

- ・経済学部常勤教員
- ・経済学部向け専門科目担当者

表彰対象者は次の通りです。

- ・前期・必修科目・・・観光経済論（朝田先生）
- ・前期・選択科目・・・レジャー産業論（持永先生）
- ・後期・必修科目・・・開発経済学（村瀬先生）
- ・後期・選択科目・・・簿記原理Ⅰ（朴先生）

#### ■教員FD勉強会 2026年3月17日（火）

経済学部学生ミーティングによる学生からの意見、授業見学の所見、授業アンケート結果（特筆すべき自由意見など）、について情報共有および議論をしました。特に、講義の連絡手段や、講義での出欠確認の方法（取り組み事例の紹介も含む）について、活発な意見交換がなされました。



<経済学部FD勉強会の様子>

## (2) FD活動を教育改善に反映する仕組み

2025年度の経済学部のFD活動は、①授業見学②学生ミーティング③教員意見交換会④教員FD勉強会、で構成されています。これらに加えて、大学で実施する授業アンケートの結果をあわせて、PDCAサイクルに組み込むことで、授業改善につながるものと考えています。

以下、各活動の詳細や位置づけについて説明します。①の授業見学は、講義の工夫や問題点をチェックし、意見を聞く機会と位置づけております。見学の所見は講義名・担当者名を伏せた上で教員FD勉強会でも共有します。見学者は実際に講義を担当している第三者なので、その所見からは現実的な提言が期待できます。

②の学生ミーティングは、履修上の問題など、教職員からでは気づきにくい点を学生から聞くことができる機会となっています。

③教員意見交換会は、特に新任の先生方の悩み・試行錯誤をしている点などを共有し、学部全体で問題解決に当たる契機になったものと期待できます。

④教員 FD 勉強会は、これら FD 活動から得られた情報の他、教員アンケートの自由記述欄にある特筆すべき意見についても共有し、さらに対応策・次年度の取り組みなどを議論し、教育改善につなげるものです。

これらの一連の活動の流れとしては、まず、FD 勉強会での議論によって次年度の取り組みを決めます (Plan)。続いて次年度に実際に取り組み (Do)、授業見学、学生ミーティング、意見交換会、授業アンケートに寄せられた意見によって問題点を確認します (Check)。そして年度末の FD 勉強会での情報共有を通して次年度改善を図り (Act)、次年度の取り組みを決める、と言う流れになります。いずれも、「学生本位の教育」の実現に貢献するものと期待しています。

## 薬学部

### (1) 「2025 年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

薬学部では毎年「学生による授業アンケート結果」に基づき、4月または9月に開催される薬学部 FD・SD フォーラム内で表彰しています。選考にはアンケート回収率およびアンケート Q5～7の結果を用い、それらを総合的判断して薬学部 FD 委員会の審議を経て決定しました (2026 年 4 月の薬学部 FD・SD フォーラム内で表彰予定)。

### (2) 2025 年度 FD 活動のミッションおよび実績

教員の自主的な授業改善のため、これまでから「薬学部 FD ワークショップ」や「授業見学」などを実施しています。今年度も以下のように、「薬学部 FD・SD フォーラム」、前期および後期講義の「授業見学」「薬学部 FD ワークショップ」を実施しました。

#### ■ 「薬学部 FD・SD フォーラム」：2025 年 4 月 3 日(木)および 2025 年 9 月 5 日(金) 実施

教育力の向上と円滑な教育体制下での学部運営の実施を目的として全教員および事務職員を対象に FD・SD フォーラムを開催しました。

#### ■ 「授業見学」：全期間を通じて授業見学を促しました。また、これらの報告書をまとめたものを薬学部 FD・SD フォーラム内で配布し教員間で情報共有するとともに、授業見学報告書の 1 年次生対象科目分や 1 年次生対象に薬学部独自で行った授業アンケートを用いて FD ワークショップを実施しました。

#### ■ 「薬学部 FD ワークショップ」：2025 年 8 月 21 日(木) 12 時 45 分～

薬学部では各教員が教育の質向上、特に薬剤師国家試験合格率の向上に寄与するように様々な工夫をされており、これらを可視化することで組織的に実践するためのアイデア創出を目的に「教育の質向上を目指した教育業務の見える化」をテーマに FD ワークショップを開催しました。

### (3) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

2023 年度より薬学部 FD 委員会での協議事項に基づき、授業見学の報告書を一覧表にして薬学部全教員に配布するとともに、4月および9月の「薬学部 FD・SD フォーラム」で授業改善に特に参考になる点などを継続的に紹介し、個々の教員の教育改善に役立てています。また、新カリキュラムでの新たな取り組みに関して、ワーキンググループが立ち上げられ、その有効性や改善点を学生アンケートによる意見聴取結果などを踏まえ、教員間で議論・共有し、薬学部全体としての教育改善を目指しています。さらに、今年度は薬学部 FD ワークショップにて、新カリキュラムでの教育のスタートとともに取り入れた学生の「主体的な学び」を促進する様々な試みに関して、有効性や改善点を教員間で議論、共有しています。



## 看護学部

### (1) 「2025年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

2025年度の授業アンケート・実習アンケートの集計結果を基に、2026年4月の看護学部全体会議で教員表彰予定です。

### (2) 2025年度FD活動のミッションおよび実績

#### ■授業公開・見学の実施

授業参加を年2回企画し、年間見学数100件を目標にTeamsにて担当している授業のPRを行い、積極的な授業参加の呼びかけを行いました。その結果、105件の授業参観がありました。

#### ■授業及び実習アンケートの実施

- ・学生のアンケート回答を促すため、各教員に授業アンケート実施について呼びかけました。
- ・教員のコメント率向上のためコメント入力をするように呼びかけました。
- ・学部独自の实習科目すべてを対象にアンケートを実施しました。結果は教員間で共有し、学生へのフィードバックを掲示しています。

#### ■学部FD研修会の実施

1. 2025年8月6日(水)「臨地実習支援システム、電子教科書等について」をテーマで開催し、看護学部教員35名、学生3名が参加し、積極的なディスカッションが行われました。アンケートの結果、教員からは「学生からの貴重な意見が聞けてよかった」「各領域の取り組みや工夫を知れて有益だった」「今後も学生と対話しながら取り組みたい」といった意見が、学生からも「学生のことを考え日頃教員が取り組んでいることが分かり、嬉しかった」「学生の要望に引き続き応えてほしい」といった意見が得られました。

2. 2026年3月16日(月)「概念分析の方法について」をテーマに、兵庫県立大学看護学研究科の小野博史准教授を講師に迎え開催しました。他学部教員等を含む41名が参加しました。

## ■看護学部教員研究発表会の実施

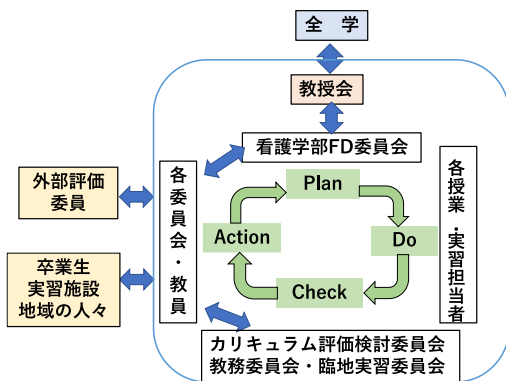
学部教員間における研究成果の共有を通し、研究の発展および領域間の学術交流の推進と共同研究の可能性を広げ、研究活動の質的向上を目的に開催しました。2026年3月6日（金）～3月13日（金）の期間に Teams 上で、ポスター・スライドを掲示発表し、閲覧・意見交換が活発に行われました。

## ■その他

- ・日本看護学教育評価機構の認証評価を受審し、5月に2024年度自己点検・評価報告書の提出、10月に実地調査を受け、3月末に適合と結果を得ました。
- ・外部評価の一環として、実習施設の指導者を招いて共に研修や懇談を行う臨地実習指導者研修会を毎年行っています。2025年度は3月12日（木）に実施しました。
- ・年度末に学生懇談会を開催し、学生の意見や要望を今後の看護学部運営に役立てます。前回は2025年3月27日に実施し、学生の意見を教授会や全体会で共有しています。2025年度も2026年3月に実施予定です。

### (3) FD活動を教育改善に反映する仕組み

看護学部では、PDCA サイクルを通して教育改善に反映する仕組みを構築しています。学部 FD 委員会での計画事項（Plan）を、全教員が実行し（Do）、その内容について FD 委員会でアンケート結果等を提供し、それらを踏まえて、カリキュラム検討委員会・教務委員会・実習委員会にて確認・評価、改善点を検討し（Check）、改善に向けての実践を各委員会・教員が考え改善に取り組みます。その活動の評価は、学部評価機関のみならず、卒業生や実習施設へのアンケート、地域の人々や様々な組織機関の声を通して、第三者の評価として、さらなる教育改善の参考にします。それらを踏まえ、次なるFD委員会の活動を計画します（Plan）。



## 農学部

### (1) 「2025年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

講義中の時間を利用してアンケートの趣旨説明とアンケートに回答する時間の確保を教員に依頼しました。

### (2) 2025年度FD活動のミッションおよび実績

#### ■「授業参観」の実施

授業参観の実施方法について昨年度を踏襲する形で以下のように設定しました。

1. 実施期間を12月上旬の一週間に区切る。ただし担当教員の授業内容の都合によっては多少ずれても構わない（第12回～14回のどこかで）。

2. 予め FD 委員が選定した各学科 2 名ずつ（可能であれば若手とベテラン 1 名ずつ）の教員の授業に最低一度参観することとし、予め Forms を通じて申し込む。

No.	教員氏名	公開授業日	時限	科目名	教室	備考
1	川崎 通夫（教授）	12/9（火）	1限	農作物学汎論	8301教室	A C 科
2	佐藤 和広（教授）	12/17（水）	2限	植物育種方法論	8204教室	A C 科
3	加藤 裕介（准教授）	12/9（火）	2限	バイオテクノロジー	8203教室	A B 科
4	井上 亮（教授）	12/18（木）	2限	動物機能学	8302教室	A B 科
5	平原 嘉親（教授）	12/10（水）	1限	食品衛生学	8304教室	A F 科
6	水間 智哉（教授）	12/17（木）	3限	食品学各論	8204教室	A F 科
7	山本 尚俊（教授）	12/18（木）	3限	フードシステム論	8210教室	A E 科
8	谷口 葉子（准教授）	12/16（火）	2限	基礎統計学	8307教室	A E 科

- 2025年12月4日（木）～12月6日（土）授業参観の事前申込
- 2025年12月8日（月）～12月20（土）授業参観実施
- 2025年12月26日（土）まで、授業参観 報告フォームA 提出期限
- 2026年1月10日（土）まで、授業参観 報告フォームB 提出期限

- 3.参観した教員は Forms を通じて参観の感想を書く。ただし批判めいた感想ではなく、気づきに繋がった点、取り入れてみたいと思う点など、ポジティブな意見を書いてください、と予めお願いしました。
4. Forms に寄せられた回答に特に問題が無ければ各教員にフィードバック。

その結果、農学部の対象教員 61 人中 30 人が参観（49.18%）、全員 1 回の参観でした。

30 人中 26 人からアンケートへの回答を得ました。具体的にこの点が良かった、この取り組みは自分も試してみたい、など、気づかされる点が色々あってよかった、など前向きな評価がほとんどでした。

#### ■ワークショップ開催の検討

他学部で行っている授業改善を目的としたワークショップの開催について農学部 FD 委員会で話し合いましたが、具体的な提案をまとめるに至らず、次年度以降に引き続き検討することとなりました。

### (3) FD 活動を教育改善に反映する仕組みについて

農学部各種委員会で企画・立案・検討した事項を、教授会等で承認したのち、全教員・構成員で実行し、実行した取り組みを、自己点検評価委員会や外部評価委員会で評価・検証することとしています。昨年度から大きな進展はありませんでした。

## 現代社会学部

### (1) 「2025 年度学生による授業評価アンケート実施結果」を活用した教員表彰

前期・後期の授業評価アンケート結果をもとにして、下記の上位者 2 名を 3 月 13 日の教授会で報告し、表彰しました。

1. 落合 知子 准教授 「国際社会学」
2. 上野山 裕士 講師 「地域福祉論」

### (2) 2025 年度 FD 活動のミッションおよび実績

現代社会学部では FD 活動の一環として、学部独自の FD 研修会だけでなく、研究例会、公開研究会、公開講座シンポジウムを行っています。2025 年度の活動の詳細は下記のとおりで、FD 研修会が 3 回、研究例会が 3 回、公開研究会が 2 回、公開シンポジウムを 1 回、計 9 回の関連行事を開催しました。

①「子どもの面接法の研究紹介 これまでとこれから」(研究例会、4月22日)

本学部教授の田中晶子先生を講師として、司法の場における「子どもの面接法」に関する研究紹介や現状での課題などに加えて、近年の国内での虐待対応における現状と課題、また教育現場での面接方法の活用方法についても解説され、活発な議論がなされました。

②「Live アンケートの活用方法」(FD 研修会、6月24日)

本学部准教授の小池高志先生を講師として、「Live アンケートの活用方法」をテーマに研修会を開催しました。ご担当の科目の「福祉社会学」をモデルにして、Live アンケートを使用した際に要する時間はアンケートやクイズでは1問で2~3分、Q&A(自由記述)はチェックを含めて10分程度で、特にQ&A(自由記述)で不適切発言に注意する必要があることなどが解説されました。また、クイズに特化したい場合として無料使用が可能なソフト(Kahoot)が紹介され、授業での活用例も紹介されました。

③「AI時代における社会学研究者の人生戦略」(研究例会、7月22日)

本学部教授の榎田美雄先生を講師として、AI時代においてわれわれ大学研究者が研究を含めてどのように人生を歩むべきかについて、様々な著書や研究を交えて解説され、これからの社会学研究者の研究への取り組み姿勢などの参考になる研究会となりました。

④「教員表彰された教員による授業改善に向けた取り組み」(FD 研修会、10月14日)

2025年度の講師は本学部准教授の竹端祐介先生と講師の谷めぐみ先生で、それぞれのご担当科目の「臨床心理学」(履修生180名)と「地域スポーツ論」(履修生217名)をモデルに、多人数授業ならではの受講上のルールの厳格化、双方向授業やグループワークでの工夫、AIでの回答に対する対策などが解説され、教員からも様々な意見が出され、充実した研修会となりました。

⑤「ごみと暮らしの社会学」(研究例会、12月9日)

講師として、神戸学院大学現代社会学部の講師 梅川由紀先生をお招きし、現代社会におけるモノやごみと人々の関わり方についてご講演いただきました。講梅川由紀先生は「生み出したごみを処理することには、人々の暮らしの知恵が反映されている」という観点で研究を進められておられ、そのような「生活文化としてのごみ」からの現代社会の分析は、大変興味深いものでした。ご講演後には学部教員それぞれの専門性から白熱した議論が展開されて、無意識に廃棄しているごみについて改めて考えさせられる研究例会となりました。

⑥公開シンポジウム「夜間中学の歴史から考える社会的マイノリティと基礎教育—『全国夜間中学校関係史料集』刊行を受けて」(1月12日)

現代社会学部と基礎教育保障学会研究委員会の共同主催により開催しました。本学部の浅野慎一学部長と江口怜講師が史料集刊行の事務局を中心的に担っており、社会学・教育学・歴史学などの多様な分野から注目されています。今回は、史料集の第II期(1971~90年)・第III期(1991~2010年)に焦点を当て、同時代を経験した公立・自主夜間中学の関係者にご登壇頂くとともに、在日コリアンの識字教室や在日ベトナム人の母語教室に関わる社会学者らからのコメントも交えて議論を行いました。参加者アンケートには「素晴らしいシンポジウムだった」「夜間中学の歴史を立体的に理解できるようになりました」等の評価が寄せられました。



会場・オンラインを含めて約100名の参加者がありました

⑦「東アジアの交流を考える」(公開研究会、1月16日)

本学部教授の須藤遙子先生が中心となり開催されました。国境は人為的なものであり、時代によってさまざまに揺れ動く。その先端では、常に異民族や異文化との交流があり、その交流の先あるいは一端として紛争が起こる。本研究会では、そのダイナミズムを学際的に共有することを目的として、多分野の研究者を招いてご講演を頂きました。各講演テーマと演者は下記のとおりで、講演後には浅野慎一学部長がコメンテーターとなり全体討論会では活発な議論が行われました。

・「多文化共生社会と日本語教育」

筑紫女学園大学 文学部 日本語・日本文学科 教授 鷹野 恵氏

・「戦勝のイメージ～日本におけるアメリカの戦争写真 1945-1957」

東京工芸大学 芸術学部 写真学科 准教授 小原 真史氏

・「出土遺物からみる人とモノの移動—ウズベキスタンのカフィル・カラ遺跡出土資料を中心に」

国立民族学博物館 学術資源研究開発センター 准教授 寺村 裕史氏

・「東アジアから中央アジアに至る紙の道」

愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン工芸科 教授 柴崎 幸次氏

⑧「学生が抱える悩み・不安について」(FD研修会、2月6日)

本学学生相談室の株本朋子カウンセラーと、学生課の寺田佳弘氏と西川結氏にご出席いただいて、本学の学生相談室の受け入れ態勢や利用状況、学生からの相談内容、保護者との関わり方や教員の学生への関わりに対するサポート相談室の体制、グループワークイベント(ヨガやおつかれさま会など)についてのお話をうかがうことができました。また、利用状況の実態などだけでなく、実際の事例を紹介いただき、学生相談室の具体的な利用の仕方やその有効性について分かりやすく教えていただきました。その他、悩みや不安を抱えている学生との対話方法についても紹介され、今後の学生指導に役立てることができる研修会になりました。

⑨「解放教育の理論・実践の歩み—大阪を中心に」(公開研究会、2月14日)

今回の公開研究会では、大阪教育大学名誉教授の森実先生をお招きし、「解放教育の歴史と課題～個人的経験を通して時代を語る?～」と題してご講演をいただきました。今回は1990年代以降に広がる人権教育の源流として、大阪を中心に関西地域で被差別マイノリティの解放運動が盛んな時期に形成された解放教育の取り組みがあり、大学生時代からの多様な解放教育の実践・研究への関わりについてお話をいただきました。他大学からも数多くご参加いただき、ご講演後に活発な質疑応答・意見交換が行われ、大学における人権教育や多様性教育を進める上でも、たいへん示唆に富む内容であり、多くの参加者から好評をいただきました。



森先生の穏やかな語り、熱心に耳を傾ける参加者

(3) FD活動を教育改善に反映させる仕組み

- ① 学生情報の共有については、学部開設当初から教授会終了後に、気になる学生や個別対応が必要な学生に関する情報共有を行っています。今年度も継続的に行い、学生指導については一人の教員で対処する

のではなく学部全体で機能的に、かつ有機的に対応できるよう情報共有を進めることができました。特に、今年度は学生相談室のスクールカウンセラーをお招きし、様々な学生に対する接し方について学ぶことができ、専門機関による研修会も継続的に開催したいと考えています。

- ② 昨年度と同様に、各教員の授業運営に対する意欲の向上のために、学生による授業評価アンケート結果をもとに表彰するとともに、表彰された教員による「授業改善に向けた取り組み」と題して研修会を開催しました。次年度についても表彰された教員による研修会を開催し、各教員の資質能力の向上につなげたいと考えています。
- ③ 今年度より実際に運用を始めたL i v e アンケートについて、使用方法を熟知している教員による研修会を開催しました。研修会后、授業時にL i v e アンケートを活用した教員から授業の導入や参加型授業を展開するうえで便利なツールになっているようで、次年度についても授業に役立つ新たなICTツールを模索したいと考えています。
- ④ 今年度は学部の研究推進委員会との連携により、学外の講師を招いて公開シンポジウムや公開研究会を開催することができました。大学教員の教育・研究指導力の向上は学部のFD活動にとって重要な要素であり、学生の学習成果向上につなげるためにも次年度も継続的に実施したいと考えています。

## 全学教育機構

2023年4月に新組織、全学教育機構となり、2024年度も各分野ならびにセンターが個別に専門教育に特化した形でFDを推進してきました。2025年度は、全学教育機構としてのFD研修に取り組みました。

開催日時：2026年3月10日（火）、13：50～16：00

概 要：【第一部】各領域からの発表  
【第二部】パネルディスカッション



### 【第一部】

開会あいさつと趣旨説明；諏訪晴彦機構長（教務部長）

全学教育機構としてのFDを開催する意義と教育の質保証および組織的FDのメカニズムが問われる時代となったことなどから、その意識を共有する研修としたい旨趣旨説明がありました。

情報系

新居 英志

今後ますますその機能が拡大されていくAIを授業にどのように取り入れていくかの検討を寺内陸博先生を中心に進めてきました。「情報リテラシー」や「データサイエンス基礎」といった従来から配置された科目はもとより、「コンピュータビジョン入門」や「生成AI入門」を教養特別講義に設置し、学生の興味関心を引くと同時に「使い手」となるよう指導しています。また、「情報リテラシー」の一部オンデマンド化やフルオンデマンド授業「データサイエンス基礎」の拡充も検討しています。



なかでも本年度の主な取り組みは、本学の「摂南大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）通称：SU-MDASH（リテラシー）」が2025年8月に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されたことです。今回、教養特別講義「生成AI入門」の授業内容を提示し、生成AIの誤った活用の促進についての課題を共有しました。

「キャリア教育は何をもたらすのか」をテーマに、本学専任教員と非常勤講師で形成されるキャリアチームより、全学部を提供しているキャリア教育の内容を提示しました。また、就職活動が中心だと誤解されることの多いキャリア教育の定義を再認識してもらいました。キャリアは、自身の過去・現在・未来の連続であること、節目を自身で振り返ることの大切さは学生だけでなく、教職員自身の問題でもあることを示しました。



したがって、「学生にもたらそうとしているもの」を考えた場

合、継続的に学ぶこと（内省するマインド）、学び方を学ぶことの大切さ、キャリア理論と社会状況を自身と紐づけること、他者への貢献を中心に添えた職業観の形成、選択肢の発見などを得たうえで、就職活動に向けたアクションプランの形成、さらには卒業後の自分自身をイメージすることなど、職業教育とは異なるキャリア教育の意味を示しました。

教職支援センター

スライドのフォントに関する問いかけがありました。松浦先生が使用しているフォントは「UD フォント（ユニバーサルデザインフォント）」でした。年齢・性別、障がいの有無にかかわらず、誰にとっても読みやすく、わかりやすく、誤読しにくいように設計された書体です。また、黒背景に白地、白背景に黒字が明確に見えることなどの示唆もありました。『教職課程履修ガイド』を全員に配布し、それに基づいての説明がありました。過去と比較し、教員採用試験に合格する学生が増えつつある一方で、教育実習に至るまでの必要単位を取得できていない学生がいること、学生の教職に対する熱量の差など、教職を希望する学生への取り組みに課題があることが示されました。全学教育機構所属教員は全学部の学生との接点が多いことから、教職課程全般に関することなどを尋ねられることもあり、参考となりました。



ラーニングセンター

2004年に「工学部学習支援室」として設置されて以降、現在の「全学教育機構ラーニングセンター」に名称を変更するまでの変遷と業務内容に関して数値を上げての説明がありました。これにより、全学教育機構所属教員がラーニングセンター業務および学生対応の詳細を理解することができました。ラーニングセンター内に併設された愛称『学ステ』は、「学生とともに考え、共に学ぶ場」として多くの学生が利用していること、課題として来室学生の増加をいかに図るかが提示されました。今後は、「基礎ゼミ」との連携強化、成果授業への「出張学習支援」「ピア・チュータリング制度」の構築、「入学前教育」と「初年次教育」の連動、キャリア教育の強化、独自の「e-learningコンテンツ」の充実化など、学生が利用しやすいラーニングセンターの在り方を研究ならびに実践していくことが報告されました。



## 【第二部】

### 質疑応答とパネルディスカッション

#### 1) 学生の温度差に関して

(質問 1) 文系学生の中には、数学に対する嫌悪感や苦手意識が強い学生がいます。パズル的な要素を持った思考力を伸ばす教案を学生に提示する実践例がありますか。

(回答概要) 現代社会学部「数学基礎Ⅰ」にてグループで問題を解くことにより、教える教えられる関係の形成、教える側の達成感、教えられる側のわからないことをわからないと言えたことの満足感などが見られました。それが次の発展的科目への展開となります。この意見を受け、学生自身の「自己肯定感」を上げていくことの必要性が重要であるという意見もありました。

(質問 2) 教室内での学生の姿勢の温度差への対応があれば教えてください。

(回答概要) 温度差が生まれる要因としては、能力的な面と態度的な面があります。態度面では、学生の大半が卒業後は社会人となる身であるからこそ規則を守るという点を強調し、指導に当たります。上記実践例から学生のモチベーションを上げることが重要です。

#### 2) AI 利用に関して

(質問) 学生のレポートなどの AI 利用をどこまで許容すべきか教えてください。

(回答概要) AI を鵜呑みにすることなく、AI に「使われない」人になってほしいという意見と今後 AI は利用せざるを得ない状況になることは間違いないことから、「いかに理解し、使いこなすか」にシフトした方が良いという意見が出ました。また、生成 AI は図の作成が苦手な傾向にあるので、ポンチ絵などを利用した要素を取り入れるなどの工夫が必要です。「ことば」だけでなく、さまざまなコミュニケーション手段を駆使する必要もあるのではないかとこの意見もありました。

閉会あいさつ；石井三恵 FD 推進委員

所属教員がどのような科目を担当し、どのように学生と向き合っているかが明確になり、それぞれの課題の共通性が見えてきました。学生たちに何を提供し、どこまで個性や能力を発揮できるかの支援を今後も話し合っていきたいと思います。

## スポーツ振興センター

### (1) 「2025 年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

- ・ アンケート結果による教員表彰は実施していません

### (2) 2025 年度 FD 活動のミッションおよび実績

#### 【ミッション】

- ・ スポーツが内包する多様な教育価値を FD 活動に転換し、組織的な教育力の向上と学生の主体的成長を促す

#### 【実績】

- ・ スポーツ振興センター独自の授業アンケートを年 2 回実施 (9 月・1 月)
- ・ スポーツ実習における授業手法の改善を目的とした勉強会を実施 (9 月 11 日、2026 年 1 月 6 日)
- ・ 専任教員・非常勤講師による授業運営ならびに教育の質向上を目的とした合同研修会を実施 (2026 年 3 月 10 日)
- ・ 課外活動団体によるスポーツを通じた実践型学習イベントを開催
- ・ SETSUDAI SPORTS TRIAL (2026 年 2 月 14 日)
- ・ 柔道部 小中学生を対象とした練習会を開催 (毎週水曜日)
- ・ ラグビー部 中学生を対象とした練習会を開催 (月 1 回程度)

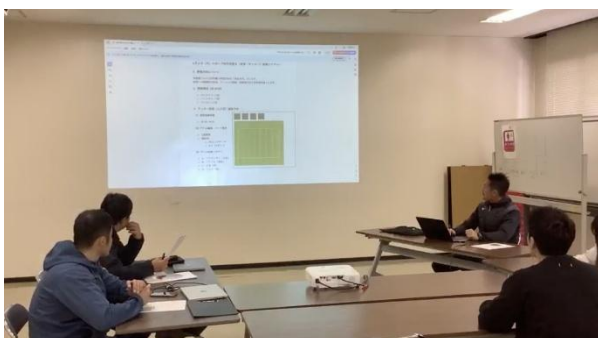
- ・ 企画課・学生課と連携し、「アスリートにおけるセカンドキャリア」をテーマとした講演会を開催（7月12日）



2月14日 SETSUDAI SPORTS TRIAL

### (3) FD活動を教育改善に反映する仕組み

- ・ 毎月第2火曜日に「スポーツ振興センター教室会議」を定例開催し、大学・大学院運営会議、教務委員会、FD委員会、学生委員会からの報告事項を共有している。これらを基に授業運営および授業手法の改善に反映させている。
- ・ 授業アンケート結果について、学部別、学科別に経年比較を行なった分析内容をスポーツ振興センター内で共有している。あわせて、各担当教員に対して個別フィードバックを実施し、授業運営および授業手法の改善に反映させている。
- ・ 課外活動団体によるスポーツを通じた実践型学習イベントにおいて、参加者および保護者を対象にアンケートを実施している。アンケート結果を踏まえた振り返りを行い、イベントの企画・運営方法の改善ならびに教育活動の質向上に活かしている。
- ・ スポーツ振興センターのFD活動の特性として、スポーツの実践に内包される教育的知見を体系的に抽出し、授業と課外活動を横断した教育活動の改善に活用している。



1月6日 授業手法勉強会



3月10日 専任教員・非常勤講師 合同研修会

## 摂南大学 WEB サイト FD 活動報告ページに詳細を掲載

FD ニュースでは、年度内の活動を紹介しています。

詳細はホームページ内の FD 活動のページをご覧ください。

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/fd/>